

第1回目の主な意見等

令和2年2月14日
地域振興戦略部

	主な意見等		
	「広聴の仕組み」	「検討の仕組み」	その他
中之島	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員は連合町内会との接点がほぼないため、所属団体以外の地域住民の意見を吸い上げるのは難しい。 ・コミセンに集めた若い人たちに連合町内会長が話し、それを地域委員会でまとめる。 ・若い人の意見は、小・中学校の保護者へのアンケート調査やSNSを活用して聞く。 ・イベントでアンケートを書いてもらう。 ・年配者向けには回覧板や連合町内会長から意見を吸い上げるなど、地域委員会と町内会が連携して幅広い年代に意見を聴く。 ・地域委員会と連合町内会長が協力し合うことで若い人や年配の人からも意見を聞けると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面は連合町内会連絡協議会、未来に向けてのまちづくりの検討は地域委員会が行う。 ・ふるさと創生実行委員会の活動は活発なので、どんどん進めたい。 ・コミセンのまちづくり部会と同じようなことやっているの整理が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者主体で、外に出た若者が戻ってくるイベントをやりたい。 ・住民からの要望をどこに持っていけばいいかわからない。地域委員の役割を明確にして、動きやすくしてほしい。 ・区長会、総代会には女性がいらない。
越路	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長が地域の要望等を支所へ伝えている。地域委員は、幅広い意見を聴くため、年齢・性別・職種別に構成された組織がよい。 ・若い世代から意見を聴くような場も必要 ・越路は区長・総代・町内会で協議会を設立し要望をとりまとめているため、地域委員会は不要と感じる。 ・区長、総代会、町内会からの方が、地域の細かい要望を吸い上げやすい。 ・地域委員会ではなく、市が行っている審議会等に地域の代表から入ってもらえば良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題ごとにふさわしい人を選出して協議する。 ・専門家をオブザーバーとして呼び、議論を深める。 ・部外者を入れて議論すれば、新しい発想が得られる。専門性と多様性が必要。 ・分科会において、地域の人を巻き込みながら検討をすれば良い。 ・予算の話が出ると議論が止まる。地域委員会は話をするが実行はできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合併から15年経っても「合併地域」でいる、越路地域のことだけを考えてよいのか。若い人が残らないのはそれが理由では。 ・オール長岡を提唱するなら、一般市民参加の協議会や委員会に地域から委員を出して議論すればよい。 ・地域委員会は「施策を決めた後に説明する会」と化している。市の施策の説明は住民懇談会でよい。 ・他市で地域委員会的な組織があるところないか。あればその活動内容等が知りたい。
三島	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員が、区長会、コミセンで力を合わせて行くと良い。 ・地域委員会で公聴会を開き、地域委員と住民が直接話をする場を設けるのも方法 ・地域委員会の中だけで話をするだけでなく、他の団体の方も入れて話がしたい。 ・委員の所属団体等で聞かれる声を吸い上げ、アウトプットできるような仕組みが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて外部から専門家に入ってもらえば良い。 ・情報共有が重要。幅広い年齢の方から話しを聞く必要がある。 ・地域委員会は検討するだけでなく、実行性を持たせなければならない。 ・まちづくりのための中間組織をつくると様々な活動(イベント)にも協力できるのでは。 ・実際に三島を動かしていける人が集まると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のテーマは地域委員会で検討すべきことなのか。戦略部で方向性を決めてもらいたい。 ・地域委員会の存在を知らない人、地域委員会が何をしているかわからない人が多い。 ・三島地域全体を俯瞰して見れる地域委員会のような話し合いの場は必要 ・地域委員会はいろんな面で制約がある。もっと動きやすい地域委員会にしてほしい。
山古志	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員として地域の意見を集約しているというより、個人の意見を発言している。 ・衣食住など基本的な生活が守られる環境づくりについて要望できる環境があると良い。 ・要望は、地域委員会でピックアップしたことはなく、支所にダイレクトに伝えている。 ・毎年、支所の保健師が主体となって地域座談会を開いているが、意見は出ても検討の場がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員会のような格式ばったものではなく、自分たちの生活について話のできる若い人たちの場もあった方がいいのではないか。 ・地域委員会でなければ解決できなかった課題もあった。今の地域委員会に代わる器はない。 ・検討する仕組みを作ったとしても、組織として発言力を持たせなければならない。地域の代表機関として諮問できるように願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの集落の課題や問題は集落の中で何とかしていきたい。 ・子育て支援のやまっ子クラブや山古志住民会議など重要な役割を果たしている。 ・様々な組織があるが、それぞれ独自に動いているので、情報をまとめ課題を融合する必要がある。 ・世代間のつながりがないので、集落行事や農作業など若い人に役割を与えることも必要ではないか。
小国	<ul style="list-style-type: none"> ・3小学校の統合にあたっては、地域委員会が旗振り役となって実現することができた。 ・総代会は集落がバックにあるため、意見の集約という面では重要。 ・地域づくり交流会では、支所とコミセンが連携し意見をきいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとの仕組みをつくる構想もある。 ・総代会がまちづくりを考えるのは難しい。 ・まちづくりについて、地域委員会で話し合う大事なことである。 ・硬いメンバーよりは、総代等を入れて話し合いをした方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落の世帯数が減ってきていて、総代や役員の成り手がいらない。 ・地域委員会で区割りを見直すような検討は出来ないか。 ・総代には女性がいないので地域委員会の代わりにはなり得ない。

	主な意見等		
	「広聴の仕組み」	「検討の仕組み」	その他
和島	<ul style="list-style-type: none"> ・全地域の住民の声を聴くのは難しい。モデル地域を指定して実施することも必要 ・地域の現状を知るには、区長の意見を聴く機会を増やす方が良い。 ・区長から行政につないでもらうと行政との距離も近くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区長は1～2年で交代してしまうため、まちづくりに対する意識が薄い。 ・他の地域や団体も仲間に入れて課題の検討を行うことも良い。 ・「これからの和島を考える会」は、いろんな分野の方が参加され、とても刺激を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活交通の実証実験をしているが利用者が少ない。 ・10年先20年先の未来からの発想で取り組むことで、今と違った取り組みや方向性が出てくる。 ・交流や助け合いの場を作っていかなないと地域は成り立たなくなる。
寺泊	<ul style="list-style-type: none"> ・広聴機能は寺泊全地域の区長会が果たすのが良い。 ・海岸地区と大河津地区で抱えている課題が違う。 ・年1回町内会要望を出しているが、それを工夫すれば広聴の代わりになるのではないか。 ・区長連合会は横の繋がりがあり、情報を聞き出しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンがまちづくりで動いており、地域委員会に代わりうる組織であると期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員会は限界にきている。 ・地域委員会で事業化されたものなど、成果について見せてほしい。 ・大河津地区では「みんな食堂」が喜ばれている。大河津地区が元気になっていければ良い。 ・波音などの組織がコミセンを受け継いでいけると期待している。 ・お金の結び付き産業が自分たちで出来たらよい。 ・地域交通の問題はコミセンではできないと思う。
栃尾	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生や高校生、女性など世代や性別に関わらず多くの人達が参加できる広聴のしくみが必要 ・多様な地域課題、生活や暮らしを守る方の意見・提案を聞くのは、コミュニティ協議会が担っていくと思われる。 ・コミセン運営委員や8つの地区コミュニティをうまく活かせればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも栃尾全体を考えるような仕組みづくりは必要 ・高齢者や若者が融合するような仕組みづくりが必要 ・まちづくりは高齢者が中心となっているような気がする。若者の意見が取り入れられるような栃尾のまちづくりにしてほしい。 ・人口が減っても、若い人のアイデアを取り入れ、交流人口を増やす。 ・人口減少は避けられない。人口が少なくても暮らしやすい、生活しやすい場所にするための検討ができる場があるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員会の果たしてきた役割は大きい。 ・地域委員会は役割を終えたと考えている。 ・合併地域の枠がまだ残っている。一体化が進んでいない。一体化を目指す方向性を重視していくことが大事
与板	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が限られた地域委員会では37ある町内会、活動団体、コミセン等の地域全体の広聴機能を担うのは難しい。 ・これまでの与板地域委員会は広聴の場ではなく、課題の検討、企画の面を担ってきた。 ・地域や年齢、職業等のバランスのとれた広聴組織とする必要がある。 ・連合町内会を立ち上げ、広聴の場としてはどうか。 ・多岐にわたって様々な団体が関係しているコミセン協議会を広聴の場とするのはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員会は上がってきた提案についてまとめる場とした方がよい。 ・コミセン協議会を意見を吸い上げる場として、利用できないか。 ・まちづくりやイベントはやりたい人が自由にやればよい。 ・若い人の意見が反映されるような仕組みづくりが必要 ・検討の場という組織を行政が作り、そこに任命するという手法では、強制的になってしまうのではないか。 ・新しいものを生み出すための組織は自発的であるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与板には37の町内会があるが、連合町内会がない。 ・長岡市の考えを示してほしい。 ・地域委員会で協議したことが反映されていないように感じる。 ・地域団体等が自由に活動するのは良いが、地域委員会との位置付けをはっきり定義する必要はある。 ・現在の地域委員会の形で広聴も検討もというのは難しい。 ・「広聴」と「検討」は別の組織としたほうが良い。 ・広聴で出てきた多様な意見を「まとめる組織」として地域委員会は意義がある。
川口	<ul style="list-style-type: none"> ・川口12地域の声を拾うには総代会が適している。 ・ピンポイントで地域の声を拾ったり、課題について検討することも必要 ・地域の課題など、総代会と地域委員会で情報共有がされていない。 ・SNS等で各地域別の声を拾うようなシステムを作る。 ・子育て世代の声を拾い、どのように市に伝えるか。 ・高齢者のことを良く知っている民生委員の声を吸い上げることも必要 ・小さい声を拾える気軽に参加できるような委員会がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア、世代からピンポイントで課題を抽出し、検討することも必要 ・いろんな世代から参加し、話し合えるような場がほしい。 ・専門家を入れて検討できるような場がほしい。 ・それぞれの団体の活動が住民に伝わっていない。 ・コミセンがまちづくりの検討の場となる。 ・地域に課題を投げ掛け、一緒になって考えるような仕掛けが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員の活動や役割が住民によく知られていない。 ・公式ではないが、気軽に意見を出してもらえるカジュアルな場がほしい。 ・地域委員会という名前を変えて、もう少し柔らかいイメージにした方がよい。 ・市から地域に危機感を持ってもらえるような働きかけをしてもらいたい。 ・地域委員会は住民の意見を述べたり陳情等もできる良い機会であるので、川口地域にとっては必要と思う。名前は変わったとしてもシステムは継続してもらいたい。